

13 帳票の注目ポイント① 教科バランス

まずは**カタチ**に注目する
 正三角形に近いかがいづつになっているか
 カタチから、**強み・伸びしろ**を自覚する
 伸びしろである低い教科に目が行きがちだが、**強みとなっている教科も自覚しよう**

キミへのアドバイス
 順位や偏差値だけではなく、教科バランスの三角形（五角形）にも注目しよう。正三角形（五角形）に近いカタチで、だんだんと大きくなっていくのが理想だよ。カタチがいづつになっている場合、**長い教科は強み。自信を持とう。短い教科は次回への伸びしろ。優先的に復習しよう。**

34 目標が見つかることが勉強のモチベーション向上に繋がる

生徒が勉強において最もやる気が出るのは「**目標ができたとき**」

生徒アンケートより 学習へのモチベーションが高まるとき

目標達成状況	モチベーション
目標ができたとき	448
人からほめられたとき	384
テストや定期テストの前	354
点数（成績）が良かったとき	329
先生（講師）が褒めたとき	196
友達（仲間）が褒めたとき	149
先生（講師）が怒ったとき	130

模試の成績表のどこを見るのか？

グラフの形をよく見よう。正三角形（英数国のバランスがよい）が理想。今は全教科で満遍なく得点することが大事。そして、あと何点で1つ上のGTZに行けるのか（どの問題が解ければいいのか）を明確にする。

高い目標を設定しよう

モチベーションが高まるきっかけは「目標ができたとき」。高い目標を設定することで、仮にそこまで届かなかったとしても自分の力を最大限に伸ばせる可能性が高められる。そして、目標を設定するためには「知ること」も大事。「やりたいこと」は「知っていること」の中からは生まれにくい。

27 苦手科目に向き合うポイント

苦手科目に向き合うことは大切。その際のポイントは、**（苦手科目）を、（苦手分野）まで分解してやること！**

こう考えて取り組むことで効果が上がり、苦手科目での得点がUPすることで、自信にもつながる！

まずはこの分野から！

56 塾に行っている生徒ほど予習と復習のバランスに注意

塾での学習の活かし方を考えると...

予習 → 映像授業 → 復習

塾あるある
 ① 予習(先取り学習) >> 復習
 ② 映像を見て終わり

塾に行っている生徒こそ、振り返りを意識的に！！

苦手科目にどう向き合うか？

「この教科が苦手です」で済ますのではなく、その教科のどの部分(分野)につまずいているのかをしっかりと分解・分析し、力を入れるポイントを明確化することが大切。

塾に行っている人こそ、振り返りが大事

何となく講義を受けて、何となく先取りをしたような気になって、それで終わりにしてしまっていたら逆効果。

30 志望校に合格するポイント

Q. 合格するための学習ポイントとは？
 現役合格できなかった生徒たちが上げた失敗の理由

1位 苦手科目をそのままにしていた。	76%
2位 日によって勉強時間にムラがあった。	60%
3位 高校の教科書を軽視して、基礎・基本が身につけなかった。	49%
4位 「ながら勉強」で集中力が足りなかった。	46%
5位 「何とかなるさ」と入試を甘く見ていた。	46%
6位 授業を怠っていた。	43%
7位 板書をノートに写す受け身の勉強で自分なりの勉強方法がみつかなかった。	43%
8位 目標に向かって本格的な勉強開始が遅れた。	41%
9位 第一志望校がワザしていた。	35%
10位 1日の勉強時間が足りなかった。	32%

受験勉強は「**苦手科目の克服**」と「**基礎の完成**」から！
 （もちろん、得意科目をつくる「伸ばす」ことも重要）

57 高校生活のすべては高1で決まる理由

成績が変動しやすい時期
 高校1年生の秋以降は、学校生活や定期テストにも慣れ、気が緩む時期。また**1学期の学習内容が身につけているかどうかの結果が現れる時期。**

成績が上昇した時期
 1年生 7月
 1年生 11月

成績が下降した時期
 1年生 1月
 1年生 7月
 2年生 7月

*1 1年生7月進研模試から2 2年生11月進研模試まで継続して受験した生徒の成績データを抽出し、成績の変動の割合を示したものである。

現役合格できなかった生徒の「敗因」は？

ダントツの第一位は「苦手科目をそのままにしていた」こと。志望校を意識するあまりに難しい問題ばかりに取り組んだり、範囲の偏った勉強になったりすると失敗する。まずはしっかり教科書を使って基礎を固め、苦手科目を早期に潰すことが大事。

高1の7月～11月の期間は、すごく大事！！

7月進研から11月進研の間に大きな成績変動が起こる（そして、その影響はその後も続く）。夏休みの生活の乱れや「慣れ」による気の緩み。ここで成績を落とさないよう、この2ヶ月しっかり頑張ることが次年度以降の飛躍につながる。